

問 圏央道開通の見込みはどうか 答 当初の24年度開通は遅れる見通し

藤沼 喜義 議員



問 今後の圏央道開通見込みはどうか。

町長 国土交通省から、埼玉県区間における用地買収の遅れにより、現時点で24年度の供用開始は困難になってきているとの説明を受けています。

建設環境課長 東北道久喜白岡JCTから五霞ICまでの区間で、未買収地があるという状況です。

現在、任意交渉と土地収用手続を併行して進めており、収用手続により用地を確保する場合、2年程度遅れる見込みです。

問 五霞IC周辺開発の進捗状況は。

町長 市街化区域への編入を前提とした調整方針のもと、県が規定する基準・要件等の整理を進めています。また、圏央道事業との関係も踏まえながら、国・県と協議、調整を図ってまいります。

問 誘致企業の状況は。

町長 現在、数社からの照会がありますが、圏央道の供用及び農地転用許可時期等のほか、地価設定の課題もあります。

企業誘致は原則、公募方式を採用してまいりますので、今後、実績のある地元企業や日野自動車

関連企業にもPRしていく予定です。

問 地権者への対応は。

町長 昨年12月に地権者協議会を立ち上げ、適宜に役員会等を開催するほか、先進地の視察研修を行いました。今後とも地権者皆様の理解を求めている予定です。

問 新4号国道の4車線化の見込みは。

町長 圏央道の供用開始時期に併せて、4車線整備を進めていく予定です。なお、国事業費への県負担分もありますので、更なる県への要望を行ってまいります。

問 IC周辺に接続する町道の整備は。

建設環境課長 町道5号線は道の駅や新4号国道更には圏央道ICに接続するための重要な幹線道路となるため、開発計画と新4号国道4車線化計画との整合を図りながら、優先的に拡充整備を行う予定です。幅員は17メートルを計画しており、現在の新4号国道のボックスカルバートは撤去され、平面交差点になる形状で調整中です。

問 TPP参加に伴い本町の農業のあり方は

答 基幹産業である農業の持続的発展に努める

問 TPPの農業への影響と行政の対応は。

町長 五霞町の主な農産物は米ですから、当然大きなマイナスになります。国の対応と併せて、行政・農協が情報交換を図り進めて行きます。

産業課長 五霞町における農地面積は、農林業センサス統計調査では、水田が806haと耕地面積の9割以上を占めています。TPPへの参加は、米価格の大幅な下落が予想されます。農業者の高齢化や生産コストの増大、担い手不足などから、農業離れが心配されます。これらに対応するため、農地の流動化、集積を行い、農業経営の効率化を図る必要があると思われる。

問 米作維持のためにもカントリーエレベーターの代替が必要では。

町長 昭和48年の稼働から、すでに老朽化が進み維持費も増大しています。生産コストを抑制するためにも、必要な施設であります。現在、むつみ農協の所管施設でありますので、受益地の拡大や立地条件などが課題となっております。早急に事業の推進を図ってまいります。また、そのためには、行政側の援助も検討が必要となると考えます。

成25年7月に新たに道の駅がオープンする予定です。当然、当町への影響も想定されますので、リニューアルを計画しています。

産業課長 「道の駅ごか」の地域食料供給施設のリニューアルを検討中で、増改築やレイアウトの変更を計画しております。

問 五霞町農業の活性化をはかるためにも重要となる「道の駅ごか」の今後のあり方は。

町長 隣接の古河市に平

